巻　頭　言

歴史分科会長　寒川高校　　**澤野　理**

2015 年度も歴史分科会は多方面にわたる活動を展開してきました。詳しくは、本誌に記してありますが、例年の活動に加え、5 月にシンガポールで開かれたアジア世界史学会にも歴史分科会として参加しました。ここでは、世界史研究推進委員会のメンバーを中心に「高校生にヒトやモノの移動の歴史を教える―日本における実践と問題」というタイトルのパネルを開き、神戸女子大学の山内晋次先生とオランダ在住の飯岡直子さんにもご協力いただき、日本人以外の参加者が少なくない中で、活発な討議を進めることができました。歴史分科会は、2009 年の第 1 回大会(大阪)以来 3 年に一度開かれるこの大会に毎回参加し、高大連携講座をはじめとする神奈川の実践や日本史と世界史をつなぐ歴史教育のあり方についての報告をしています。次回は、2018 年に長春で開催予定となっておりますので、興味のある方はぜひご連絡ください。

さて、ここ数年来目の離せなかった「歴史基礎」、「日本史必修化」を巡る問題ですが、昨年 8 月に文部科学省は日本史必修ではなく近現代史を中心として日本史と世界史を統合した新科目「歴史総合」を設置するという方針を示しました。しかし、具体的な単元構成など、まだ不確定な部分も多く、今後の動向が気になるところです。一方、教え方については、いわゆるアクティブラーニング的手法が重視されるという方針は堅持されているようです。これは、センター試験に替わる新たな入試の動向ともリンクしており、全歴研などの歴史教育関係の大会でも「新たな手法」による実践報告が増えています。

ここで注意しなければならないのは、「アクティブラーニング」という「形」をなぞるだけでなく、その手法を通じて「何を生徒に伝えるか」ということでしょう。そして、それを可能とするためには、教師の側に幅広い知識や教養の裏付けが必要であることは論をまたないところです。そのための研修の場としての社会科部会・歴史分科会の役割は、ますます重要なものとなっています。何年も同じことを書いてしつこいようですが、われわれ社会科部会・歴史分科会の各種活動は、現状では数少ない「社会科教師」「歴史教師」としての力量を高めるための場です。社会科や歴史の授業でお困りの時、別に困っているという程ではないが自校以外の教員に話を聞いて欲しい時、日々の授業への教材探しにお困りの時、ズバリ、指導法に関するアドバイスを聞いてみたい時などなど、いつでも社会科部会・歴史分科会にお声がけください。

時節柄、校務等ご多忙とは存じますが、これを機にひとりでも多くの先生方がわれわれの参加いただけることを祈念することをもって、巻頭言とさせていただきます。今後ともよろしくお願い申し上げます。